



うみなかビジョン2030

～ 国営海の中道海浜公園の将来像 ～



令和3年3月

国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

はじめに

海の中道海浜公園は、海の中道固有の白砂青松の自然環境の保全、北部九州における広域的レクリエーションの拠点の創出等を目的として設置された国営公園です。

1976年（昭和51年）に事業着手して以来40年以上にわたって事業を実施しており、約540haの緑豊かで広大な空間を最大限に活用した多様なレクリエーションを提供するため、国だけでなく、公園の運営維持管理業務の受託者、水族館（マリンワールド海の中道）やホテル（ザ・ルイガンズ。）等を運営するPFI事業者など、多様な主体が連携して公園の魅力を高めていることが特徴です。

一方で、近年では、少子高齢化、人口減少の進行やライフスタイルの多様化など、様々な社会情勢の変化が生じており、これらの社会情勢やニーズの変化等に柔軟に対応しつつ、公園の魅力を維持・継承していくことが必要とされています。

このため、本公園では、計画的に自然を保全、再生しながらその環境を活かしたレクリエーションを提供するというこれまでの計画理念を継承しつつ、社会情勢の変化等にも柔軟に対応して今後も多くの方に満足頂ける公園であり続ける体制を構築するため、公園管理者、施設の管理運営を行う者、学識経験者、関係地方公共団体等からなる協議会（国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会）を2020年（令和2年）7月に設置しました。

本将来像は、当協議会における協議の結果として、概ね10年後（2030年）に実現を目指す将来像（ビジョン）を明確にしつつ、更にその先の20年後、30年後も本公園が継続的にストック効果を高め、また、公園が中心となって海の中道周辺地域の更なる発展も後押しできるよう、本公園の整備、管理運営に係る公・民・学が一丸となって計画的な取組を推進するために策定しました。



2020年12月撮影

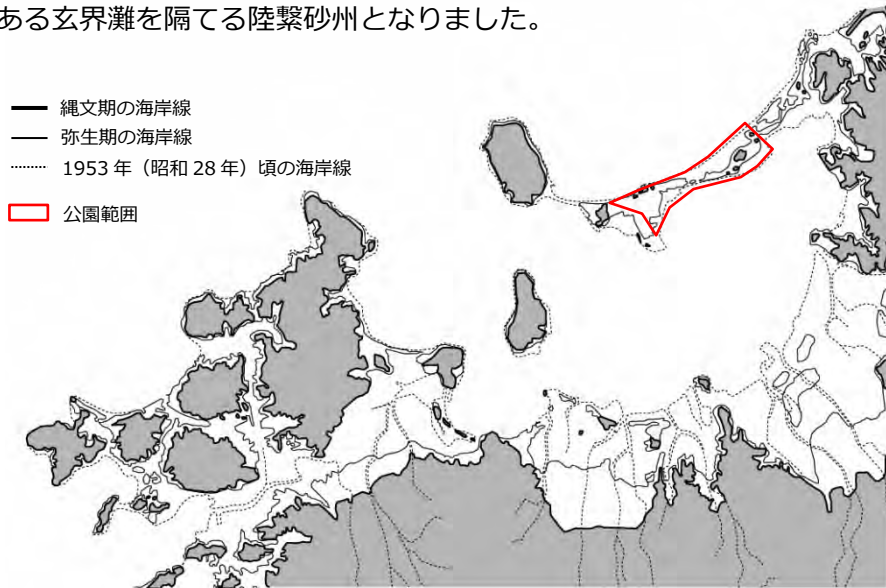
目次

1. 国営海の中道海浜公園の自然、歴史、計画	P1
(1) 海の中道の自然	
(2) 海の中道の歴史	
(3) 自然、景観を守るための法規制	
(4) 国営公園としての設置	
(5) 公園計画	
2. 本公園の現状	P4
(1) 計画面積、開園面積	
(2) 園内の主な施設	
(3) 利用の状況	
(4) 公園整備、管理運営に関わる主体	
3. 今後想定される社会情勢の変化	P6
4. 海の中道海浜公園の将来像	P7
5. 将来像実現に向けた取組	P8
6. 将来像の実現を支える手段	P16
(参考) エリア別の整備、管理運営の方向性	P17
今後に向けて	P22
国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会 委員名簿	P23

1. 国営海の中道海浜公園の自然、歴史、計画

(1) 海の中道の自然

国営海の中道海浜公園（以下、「本公園」という。）が位置する通称“海の中道”は、福岡県福岡市北部に位置する志賀島と九州本土とを繋ぐ砂州の呼称です。古代には、志賀島、大岳、シオヤ鼻などの島々が点々と海上に浮かぶだけでしたが、海流の堆積作用でそれらの島々が繋がることにより、内海である博多湾と外海である玄界灘を隔てる陸繋砂州となりました。



(2) 海の中道の歴史

福岡は、中国大陸や朝鮮半島に近いことから、古くから国が栄え、大陸との交流も盛んでした。海の中道周辺も、8世紀～11世紀の集落跡とみられる「海の中道遺跡」や「漢委奴国王」の金印発掘地である志賀島などの歴史的な遺産等があります。

海の中道は、大半の表層は砂質で水はけは良好な一方、乾燥しやすく、地下水位が高いため、長い間不毛の地でしたが、江戸時代からクロマツの植林が進められた結果、白砂と松林の固有の景観がうかがえ、筑前国続風土記（1809年）や六十余州名所図会（1855年）等で名所として紹介されています。



金印
(写真：福岡市博物館所蔵)

せしむ。今に至りては、地を修補し、人方を用るも、みな
公財を出して、備夫をつかひ、村民を勞せず。此故に、地を
地を開し初より、貧民共日々勞りて備作し、其業を
うけて、能く及ばず。今に至りては、此種地によ
りて、水く其民の利養となれる事小ならず。凡國中
の鹽地、新開入所有。昔よりこれある所、處處々も、
此種地の開くして、町敷多にしかず。又永世まで風波
の波散ながら、此所守護の爲に、寛永三年
龍土の祠を、新に建立せし。其祠は日
用の民食にて、一日も闕べからざる事未だにつげり。
百味の長なる事むべ也。安を以、五穀を作れる田圃
につぎては、鹽地の利益廣し。舊の繁華が、極公の
爲に海水を養て、利を興せし計むべし。な
な。奈多の白浜は、誠に希世の境地なり。村人は此所
を海の中道と云。上和白村の下に、桂崎有、遠千海有。
此所に近き故、此邊をかつら島と云。立花山、香羅
山よりもつぎきたれば、山までつゞくよめりと云。

奈多の白浜は、誠に希世の境地なり。
村人はここを海の中道と云う。

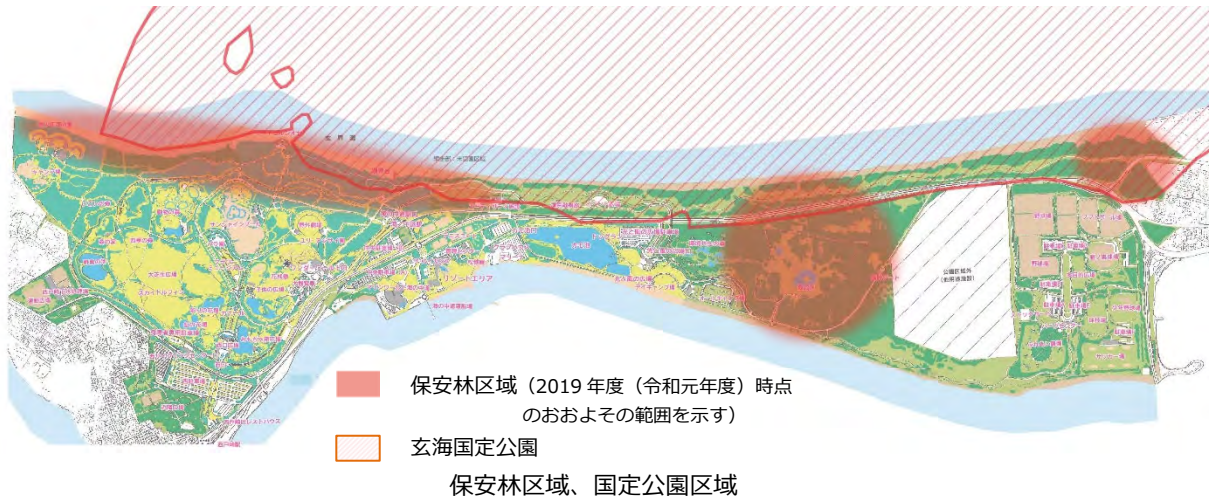
筑前国続風土記 19 卷
貝原益軒著（1809年）



六十余州名所図会 筑前 筥崎海の中道
歌川広重（1855年刊）

(3) 自然、景観を守るための法規制

長年のマツの植栽等により形成された白砂青松の海岸景観は、優れた風致の保護を図るべき場所として、1956年（昭和31年）に玄海国定公園に指定され、一定の開発が制限されています。また、形成された松林の多くは、防風や飛砂防止等の観点から保安林として指定され、伐採等の制限により守られています。



(4) 国営公園としての設置

海の中道には、1936年（昭和11年）に日本最初の民間飛行場である雁ノ巣飛行場が建設され、戦後の1945年（昭和20年）には米軍博多基地が設置されていました。

その後、米軍の撤退に伴い、1972年（昭和47年）に米軍基地の一部（515.8ha）が返還されましたが、その跡地利用については、様々な要望書が提出されました。その中で、公用又は公共用の用途に当たらない要望は退けられ、1973年（昭和48年）の国有財産北九州地方審議会返還財産部会における「本施設跡地の立地条件並びに玄界灘の海岸線、白砂地帯及び松林等に代表される優れた自然景観等、現地の実情から見て大規模公園用地として認められること、また、福岡県及び福岡市の熱心な要望もあり貴重な自然景観を最大限に活かした大規模公園を整備することは適当である」との合意により、大規模公園用地として利用することが決まりました。

そして、1975年（昭和50年）に福岡県により都市計画公園「海の中道海浜公園」の都市計画決定がなされ、その事業主体については、1976年（昭和51年）の都市公園法改正により創設された国営公園制度に基づき、国が整備・管理を行うこととなりました。



雁ノ巣飛行場



米軍キャンプ

(5) 公園計画

(1)～(4)の自然、歴史、経緯等を踏まえ、本公園は以下のような理念、方針等に基づき整備を行っています。

○基本理念 ※要約

基礎条件：“海の中道”の歴史的形成過程とその進化の方向性と自然生態的段階の認識

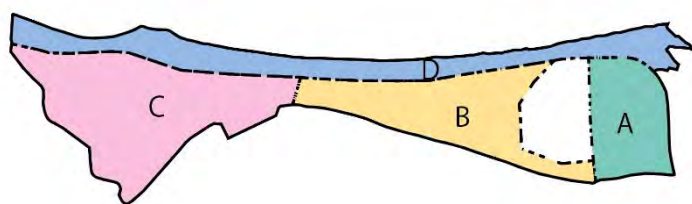
テーマ：海の中道の自然体系と21世紀へ向けての文化・レクリエーション展望の共生環境の創造

○基本方針 ※要約

a.社会条件に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○福岡市のレクリエーション一大拠点、北部九州圏域の広域緑地系統の一環として位置付け。即ち、日帰り利用を主体としながらも、既存施設を活用した宿泊利用も考慮。 ○隣接、近隣地域への本公園建設が与える影響を十分検討して、共存関係が成立するための条件に配慮しながら計画策定を進める。
b.自然条件に対して	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな造成に当たっては、既存の植生、地質、土壌条件等を十分考慮する。 ○全域が地表を除いて砂地である為、土壌改良又は土壌置換を行う事により植栽に適した土壌条件をつくる。 ○臨海性の植生を改善し二次林の形成を促進しつつ、緑地帯を拡大発展させる。 ○淡水と塩水の自然的バランスを破壊しないように池の造成を考慮する。
c.計画条件について	<ul style="list-style-type: none"> ○スケールメリットを生かし自然公園的な性格をベースに通年利用可能な計画とする。 ○利用需要の多い夏季の海岸レクリエーション利用に対しては特別に考慮。ただし海岸線の現状保全を前提とし、一部浸蝕防止対策を行う。 ○北から吹く潮風の防風処置を植栽や盛土により講じる。 ○限界利用者に対して利用抵抗を小さく各年齢層の人々が平等に楽しめる企画を立案。 ○池の造成の切盛は整合させる。池は自然な地下水位の変動に対応するものとする。

○土地利用計画（ゾーニング）

本公園は、それぞれの立地特性等からA～Dの4つのゾーンに分けて計画されています。各ゾーンは「緑の樹林」「碧い海」そして「輝く太陽」を基調に、全体的調和を図りながら新たなランドスケープを創造することを目指して計画されています。



- A地区 樹林とスポーツの広場
- B地区 樹林とピクニックの広場
- C地区 樹林と文化・いこいの広場
- D地区 海浜といこいの広場

2. 本公園の現状

(1) 計画面積、開園面積

本公園は、1981年（昭和56年）に開園して以降、順次開園区域を拡大しており、計画面積539.4haのうち349.7ha（約65%）を開園しています。



2020年（令和2年）10月1日時点の開園区域

(2) 園内の主な施設

園内には、大芝生広場、遊具などのほか、動物と直接ふれあうことができる動物の森、水族館（マリンワールド海の中道）やホテル（ザ・ルイガンズ）、サンシャインプールなどの多様な施設があります。

① 青少年海の家

雄大な玄界灘に面し、研修・宿泊棟やキャンプ場などを有する社会教育施設。



② 動物の森

動物と直接ふれあうことの出来る動物園。



③ サンシャインプール

6つの多様なプールを備える西日本最大規模のレジャープール。



④ 環境共生の森

森づくりを行うエリアに位置付け、地域の皆さんと協働で苗木を植えている。



⑤ 森の池エリア

まとまったクロマツ林が成立し、降雨状況によって「池」が出現するエリア。



⑥ デイキャンプ場

博多湾を眺めながらバーベキューが楽しめる施設。



⑦ ザ・ルイガンズ.

全室博多湾に面し、リゾートライブを演出する様々な施設がそろうホテル。



⑩ 大芝生広場

広大な芝生の広場は各種スポーツ大会など様々なレクリエーションが楽しめる自由な空間。



⑨ 子供の広場・花栈敷

小さな子供たちのための遊具やアスレチックなどを備えた自然と親しみ、のびのびと自由に遊べる空間。花栈敷では大規模な花修景を展開。



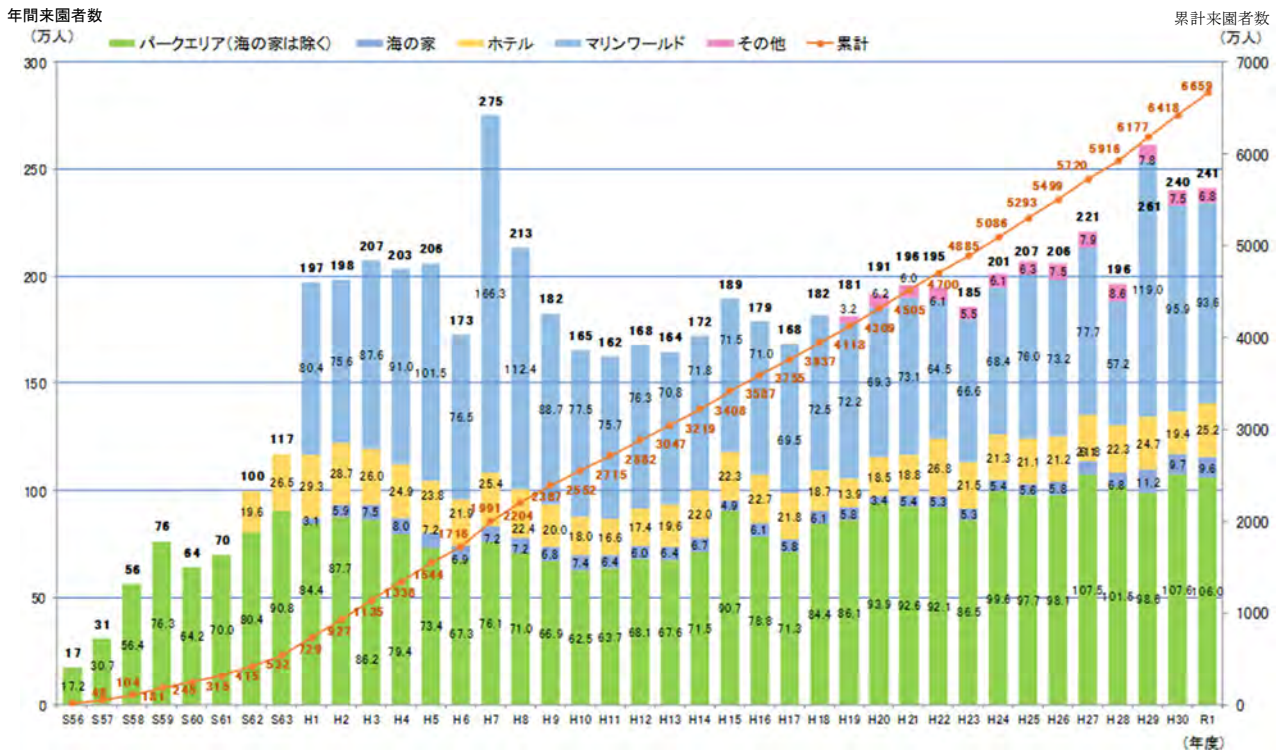
⑧ マリンワールド海の中道

イルカやアシカのショー、巨大なシロワニが泳ぐパノラマ大水槽など見どころがいろいろい水族館。



(3) 利用の状況

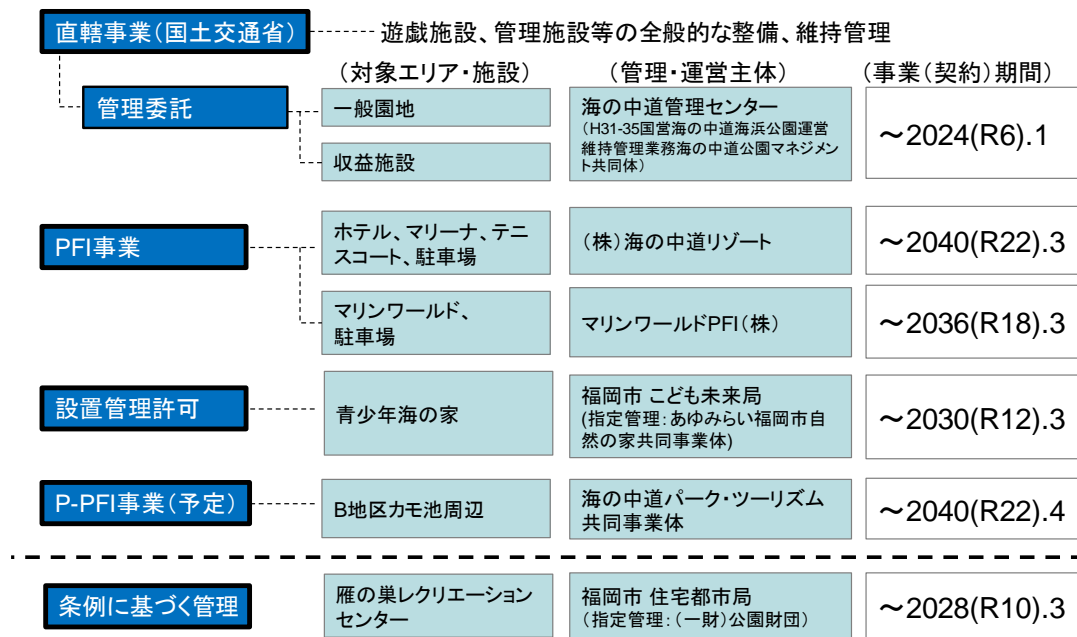
1981年度（昭和56年度）に開園以降、施設の充実に伴って利用者数は増加し、2019年度（令和元年度）までに累計で約6,659万人の方に利用頂いています。



公園利用者数の推移

(4) 公園整備、管理運営に関わる主体

本公園は、国が公園管理者として公園全体の整備、管理運営を行っていますが、PFI法に基づくPFI事業など、民間事業者等による水族館、ホテル等の整備、運営を組み合わせることで、官民連携により多様なレクリエーションを提供しています。



整備・管理運営の体制

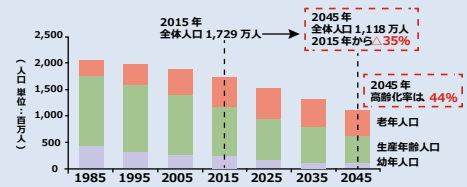
3. 今後想定される社会情勢の変化

本公園は、当初の計画理念等に基づきつつ、社会情勢やニーズの変化にも柔軟に対応しながらこれまで整備、管理運営を行ってきました。今後も、少子高齢社会の進展や新しい生活様式への対応など、社会の変化等に対応してそのストック効果を高めていくことが必要です。

■ 主な社会情勢の変化の例

■ 人口減少、少子高齢化

全国的に人口減少・少子高齢化が進み、その傾向は今後も継続することが見込まれる。健康の増進、高齢者の社会参加の推進などがより重要に。



(出典) 社会資本整備審議会 第 44 回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成 (原典は以下)
2005 年まで：総務省統計局「国勢調査報告」
2015 年：総務省統計局「平成 27 年国勢調査人口等基本集計」
将来の推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成 30 年推計)より作成
(注) 福島県は県全体での推計しか行われていないため集計の対象外。

【5万人クラス都市の人口の推移】
※「5万人クラス都市」=三大都市圏、県庁所在地都市を除く、人口5万人未満の市町村

■ ライフスタイルの多様化

物の豊かさから心の豊かさを求める価値観へ移行する中、持続可能で多様性のある社会の実現に向けた取組がより重要に。

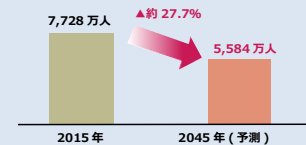


【SDGsにおける17の国際目標】

(出典) 外務省 HP JAPAN SDGs Action Platform

■ 経済情勢の変化

アジア諸国の経済活動が拡大し、国際競争が激化する中、国内の生産年齢人口は低下。ポストコロナに向けた国際観光需要拡大の取組がより重要に。

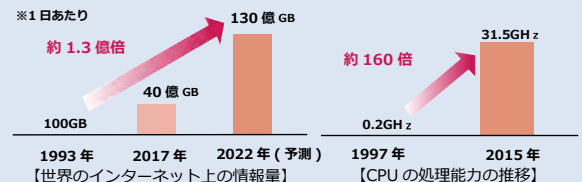


【我が国の生産年齢人口の推移】

(出典) 社会資本整備審議会 第 44 回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成 (原典は以下)
総務省「人口統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成 29 年推計)

■ デジタル革命の本格化

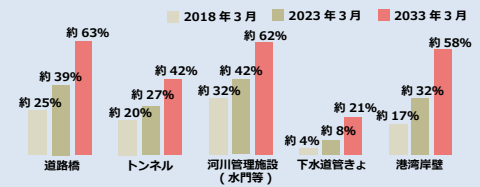
情報通信技術等の進展に伴い、ICT の利活用、データや新技術を活用した管理の効率化等がより重要に。



(出典) 社会資本整備審議会 第 44 回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成 (原典は以下)
総務省「平成 27 年版情報通信白書」

■ インフラの老朽化

高度経済成長期に整備された道路、公園等の社会資本の老朽化が今後加速度的に深刻化。予防保全に基づく効率的・効果的なメンテナンスがより重要に。



【建設後50年以上経過する施設】

(出典) 社会資本整備審議会 第 44 回計画部会 (R2.4.30) 資料より作成

■ 新しい生活様式への対応

新型コロナウイルス拡大を受け、働き方の見直し、新しい生活様式の定着が求められる。ウィズコロナ、ポストコロナ時代に感染症等のリスクの拡大にも柔軟に対応できる健康的で豊かな生活を送るため、公園の存在はより重要に。



(出典) 全国都市公園整備促進協議会 New Normal Park Life ポスター

4. 海の中道海浜公園の将来像

本公園が、多様な施設、多様な主体により構成されていることを強みとして、今後想定される社会情勢の変化等に柔軟に対応し、計画的に公園の魅力・ストック効果を高めていくためには、国、民間事業者等の全ての主体が、明確なビジョンを共有した上で、その実現に向けた取組を推進することが重要です。

このため、本公園では、概ね 10 年後（2030 年頃）に実現を目指す将来像として以下の 4 つを掲げ、これらの実現に向けて、園内の全ての者が一体となって取組を進めていきます。

将来像 1 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

将来像 2 海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園

将来像 3 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

将来像 4 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

■概ね 10 年後の公園の主なイメージ

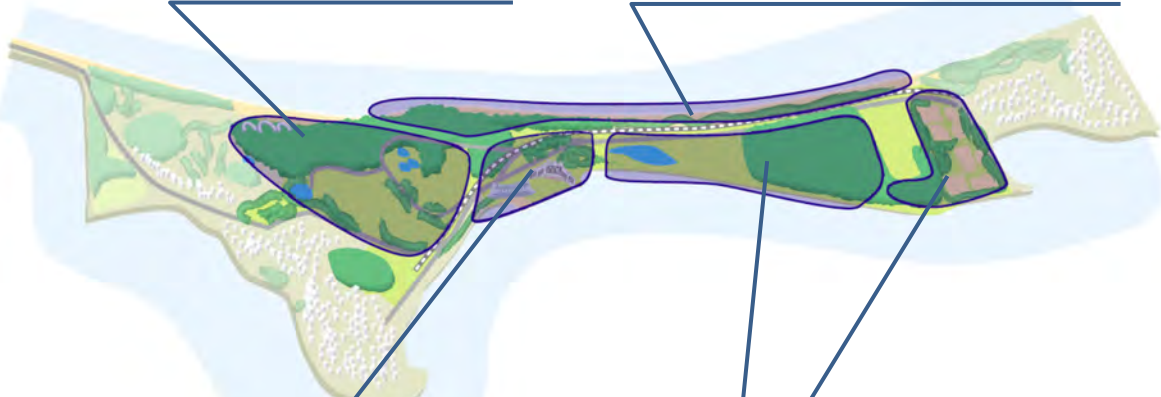
以下は、将来像 1～4 の実現に向けた取組の結果として 10 年後に実現している公園内の各エリアの主なイメージを示しています。将来像と各エリアでの取組との詳細な対応関係は（参考）を参照して下さい。



今以上に魅力的な遊びの場



白砂青松を継承する自然との共生の場



快適に過ごせる癒やしの場

大人も楽しめる、学べる場

健康的なライフスタイルを支える場



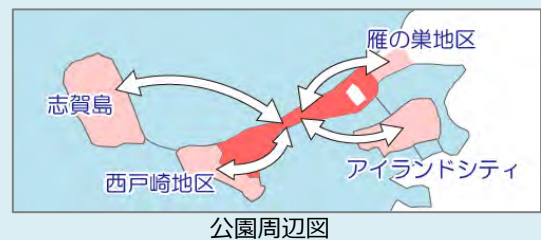
5. 将来像実現に向けた取組

将来像1 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

本公園の多様な施設、豊かな自然を活用してより一層多様な楽しみ方を提供することで、本公園を訪れる方が元気になるとともに、本公園の存在が周辺地域の一層の発展、活性化に寄与するよう、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね 10 年後の公園のイメージ

- 多様な施設がそれぞれの強みを活かし、連携してより多様な楽しみ方を提供することで、地域の住民はもとより、世界中からここでしかできない体験を求めて人々が訪れる公園となっている。
- 博多湾側に海浜レクリエーションを楽しむことができる新たなエリアが整備され、より海を楽しむことができる公園となっている。
- ファミリー層に加えて、子育てが終わった世代やカップルも公園に足を運んでもらえるようなエリアが創出され、より幅広い層に利用頂く公園となっている。
- 金印が出土した志賀島等の歴史的資源や、西戸崎、雁の巣地区、アイランドシティ等の周辺地域とも一体となって海の中道の魅力を発信し、海の中道周辺地域の全体が活気づいている。



■ 具体的な取組

○多様な主体との連携、一体的な発信

多様な施設を有する本公園の魅力をより高めるためには、各施設の管理者や運営に係るボランティア、市民団体等がより一層連携を強化し、相乗効果により公園のポテンシャルを最大限に発揮することが必要です。

また、公園だけでなく、公園の外の地域、資源、福岡市内、福岡県内の関係行政機関や観光事業者等との連携を深めることで、“海の中道”として公園と地域が今後も魅力を増し、Win-Win で発展し続けられるよう、以下の取組を進めます。

項目	今後の具体的取組
公園の中の 連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○本公園の将来像の実現に向けて「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」で各主体の連携を強化し、継続的なフォローアップを行う。 ○園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報などを連携させる取組をより一層推進する。
公園の外との 連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○公園、志賀島や西戸崎等の地域関係者がオールうみなかで地域の魅力を発信する「(仮称)うみなかたび推進会議」を設置し、ポータルサイトなどにより各エリアと公園の外の地域とが一体となった情報発信を行う。

○海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供

博多湾と玄界灘という 2 つの海を有する国営公園として、その立地を活かした多様なレクリエーションを、多様な層に提供していきます。

項目	今後の具体的取組
多様なニーズへの対応	<p>○既にファミリー層の利用者が多い C 地区はその魅力をより強化、Park-PFI 事業が開始される B 地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。</p> <p>○日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がり」のエントランスとして海の中道駅口をリニューアルする。</p>
海の魅力の発揮	<p>○穏やかな海に面した砂浜が広がる B 地区未開園区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。</p> <p>○博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。</p>
食の魅力の充実	<p>○地産地消、食育等のテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。</p>



大人が楽しめる場の整備（B 地区）



海辺のアクティビティの導入



マルシェの開催
(写真提供：吉野ヶ里歴史公園)

○地域活性化への貢献

公園が賑わうだけでなく、公園を起点とした周辺地域の利用を促すツーリズムの推進など周辺地域と一体となった取組により、より一層の地域活性化に貢献します。

項目	今後の具体的取組
地域活性化	<p>○地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。</p> <p>○地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。</p>



サイクルツーリズムの促進

将来像2 海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園

江戸時代までは人も住めず、植物も生えない不毛の砂地だった海の中道を、花・緑豊かな公園として整備してきたこれまでの取組を後世に継承し、白砂青松に代表される固有の景観を保全するとともに、その価値、大切さを伝えるため、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね 10 年後の公園のイメージ

- 海の中道固有のマツ林が保全、再生され、白砂青松の景観が後世も変わらず遺されている。
- 市民との協働による森づくり等によって豊かな自然環境・生態系が創出されており、その過程を通じて市民等が自然や生き物の大切さについて学んでいる。
- 園内の施設間の連携による環境学習メニューの充実などにより、公園全体が環境学習のフィールドとなっている。

■ 具体的な取組

○海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生

白砂青松の自然、景観を保全するため、以下の取組を継続的に実施します。

項目	今後の具体的取組
マツ林育成	<ul style="list-style-type: none"> ○玄界灘側の D 地区未開園区域のマツの植栽等を推進する。 ○樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。
多様な主体との協働	<ul style="list-style-type: none"> ○公園内外のマツ林育成保全や海岸環境の保全のため、保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進する。 ○江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組を紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて市民と協働で白砂青松の景観を保全する。



マツの植林



ボランティアによる海岸清掃の実施



クロマツの植林の歴史を学ぶガイドツアーの実施

○教育施設、環境学習フィールドとして活用

園内外の多様な人材、自然資源をうまく活用・連携させながら、公園全体を教育、環境学習のフィールドとして活用します。

項目	今後の具体的取組
人材育成	○環境教育の指導者を養成する講習会の開催など、人材育成の取組を推進する。
環境学習	○森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、関係主体等との連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。



ボランティア講習会の実施



生き物観察



希少種の保全活動
(本公園でのニッポンバラタナゴ保全活動)

将来像3 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

福岡市の中心部に近接したみどり豊かで開放的な空間が、市民の心豊かで健康的なライフスタイルを支える場、新型コロナウイルス感染症対策等に伴う運動不足、ストレスを解消する場として活用されるよう、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね10年後の公園のイメージ

○野球、サッカー等の競技スポーツからジョギング、サイクリング等の手軽な運動まで、年齢層や競技レベルに応じた運動施設、運動メニューが充実し、市民の健康増進の場として活用されている。

○みどり豊かで開放的な空間が、感染症対策等に伴う運動不足、ストレス蓄積を解消する場、癒やしの場として、新しい生活様式に基づき楽しく利用されている。

■具体的な取組

○スポーツ・レクリエーションの場としての機能充実

国営公園予定地である雁の巣レクリエーションセンターとの連携・役割分担により、スポーツ・レクリエーション機能の充実を図ります。

項目	今後の具体的取組
運動	<p>○既に市民の多様なスポーツの場として親しまれている雁の巣レクリエーションセンターの区域を、福岡市が管理する現行の形を基本として国営公園として開園するとともに、公園内の他のエリアとの連携を強化する。</p> <p>○園内の園路の改修等により、サイクリング専用コースやジョギングコースなどの運動ができるコースの設定を行う。</p>



(初心者向けのテニス教室)



(本格的な競技利用)



(サイクリング)

多様なスポーツの場の提供

○健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実

今後も進行する高齢社会の中での健康の維持・増進の場として、心の癒しとなる場としての機能をより充実させていきます。

項目	今後の具体的取組
健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ○海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ○テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を活かした健康プログラムを充実させる。 ○志賀島－海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。
癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ○花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。



海の中道の自然を活かした健康プログラム



高齢者スポーツ



花を觀賞しながら食事
(出典：淡路ハイウェイオアシス HP)

将来像4 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

本公園が、今後増加するシニア世代が社会とつながり、活躍できる場、多様なニーズに応じた多様な学びの場となると共に、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず全ての人が目的に応じて園内を円滑に移動して楽しむことができる場となるよう、以下のイメージの実現を目指して取組を推進します。

概ね10年後の公園のイメージ

- ニーズに応じた多様な学びのメニュー、市民参加のメニューが充実し、シニア世代が生き生きと活躍する場となっている。
- 大人向けの体験メニュー、学びのメニューが充実し、子供から大人まで多様な世代が学びを深める場となっている。
- ユニバーサルデザインで施設が整備され、徒歩、自転車、バスや新たな移動モビリティなど多様な園内移動手段が充実することで、誰もが円滑に移動し、楽しむことができている。

■具体的な取組

○市民参加の場の充実

市民が主体的に企画するプログラムや個人の知識、特技等を活かしたプログラムなど、よりやりがいのある市民参加メニューを充実させます。

項目	今後の具体的取組
市民参加	○市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。

○学びの場の充実

子供だけでなく、大人も含めて充実した質の高い学びができるプログラムを充実していきます。

項目	今後の具体的取組
学びの充実	○様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ○食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。



昔遊び指導ボランティア



公園での企業研修

(写真提供：株式会社フォレストアドベンチャー)



園内でのネイチャー写真教室

(出典：鹿児島市公園公社 HP)

○ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営

ユニバーサルデザインの考え方に基づき、今後も安全・安心して快適に公園を利用頂けるよう施設整備・改修等を推進するとともに、広い園内の移動の円滑化に向けた取組を行います。

項目	今後の具体的取組
ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ○障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。
園内移動	<ul style="list-style-type: none"> ○施設間の移動の利便性、人が滞留する居心地の良い空間等に配慮した公園全体の交通ネットワークの再整理を行った上で、歩きやすい、走りやすい空間や動線の整備、サイクリングコースやバスルートの再編、新たな休憩や交通の拠点の整備など必要な対策を実施する。 ○広い公園をスムーズに、楽しく移動できる新たなモビリティの導入などにより、園内の回遊性を高める。



車いす利用者のサイクリング



新たな移動手段の導入（電動キックボード）



車いす利用の子どもたちが一緒に楽しめる遊具の整備
(東京都建設局東部公園緑地事務所資料より)

6. 将来像の実現を支える手段

4つの将来像を実現するためには、公園内の各関係主体が今後10年間にわたって継続的に、計画的に取組を実施していく必要があります。

そのため、各関係主体が、それぞれの強みを活かして役割分担しつつ、必要に応じて連携し、優先順位を明確にしながら将来像実現という目的を達成するための手段として、以下に留意した継続的な取組を推進します。

①継続的にサービスレベルを高める好循環の形成

本公園は、多種多様な質の高いサービス、体験を提供するため、民間事業者がそのノウハウ等を活かして設置・運営している施設が多く、利用者からの施設利用料金等に基づいてそのサービスレベルを維持・向上させています。

このため、本公園では、より質の高いサービスを提供していくことで、より多くの方にご来園頂き、それによって得られる収益を更なるサービスの向上に活用して、更に多くの方にご利用・ご満足頂く、という好循環を形成していくことを目指します。

②インフラ管理の効率化

本公園は、約540haという広大な空間と豊かな自然を最大限に活かして、多様なレクリエーションを提供していくことを目指していますが、それを支える上下水道等のインフラや各種施設を、限られた予算で効率的・効果的に整備、管理していく必要があります。

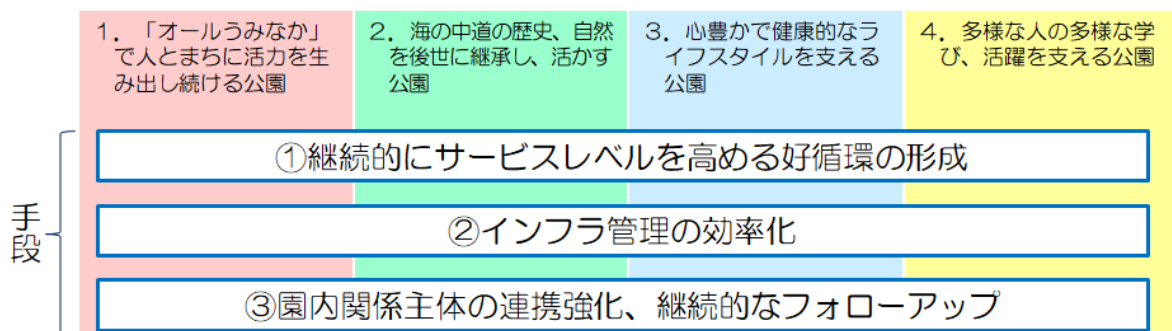
このため、将来像実現に向けた取組の実施にあたっては、老朽化した施設の更新のタイミングに合わせた長寿命化対策、施設の集約再編などの選択と集中、ICT等の新技術の活用などの整備、管理の効率化もあわせて検討していきます。

③園内関係主体の連携強化、継続的なフォローアップ

将来像は、策定して終わりではなく、その実現に向けた着実な取組とそれを支える継続的な仕組みが重要です。また、より効果的な実施に向けた試行的取組や公民連携による実証実験など、新しい取組に柔軟に対応できる仕組みも必要です。

このため、国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会で取組のフォローアップや実証実験等の検証、評価等を行うとともに、園内の関係主体がその取組の進捗の確認、連携の強化を図るための会議を定期的に開催していくことで、将来像実現に向けた継続的なフォローアップを行っていきます。

将来像（目的）



(参考) エリア別の整備、管理運営の方向性

現在の公園利用の中心エリア (C・D地区) ⇒ 今以上に魅力的な遊びの場へ

(現状)

大規模遊具、動物の森、プール、大芝生広場、フラワーミュージアムなど多種多様な施設が集中した、ファミリー層を中心に人気のエリア。

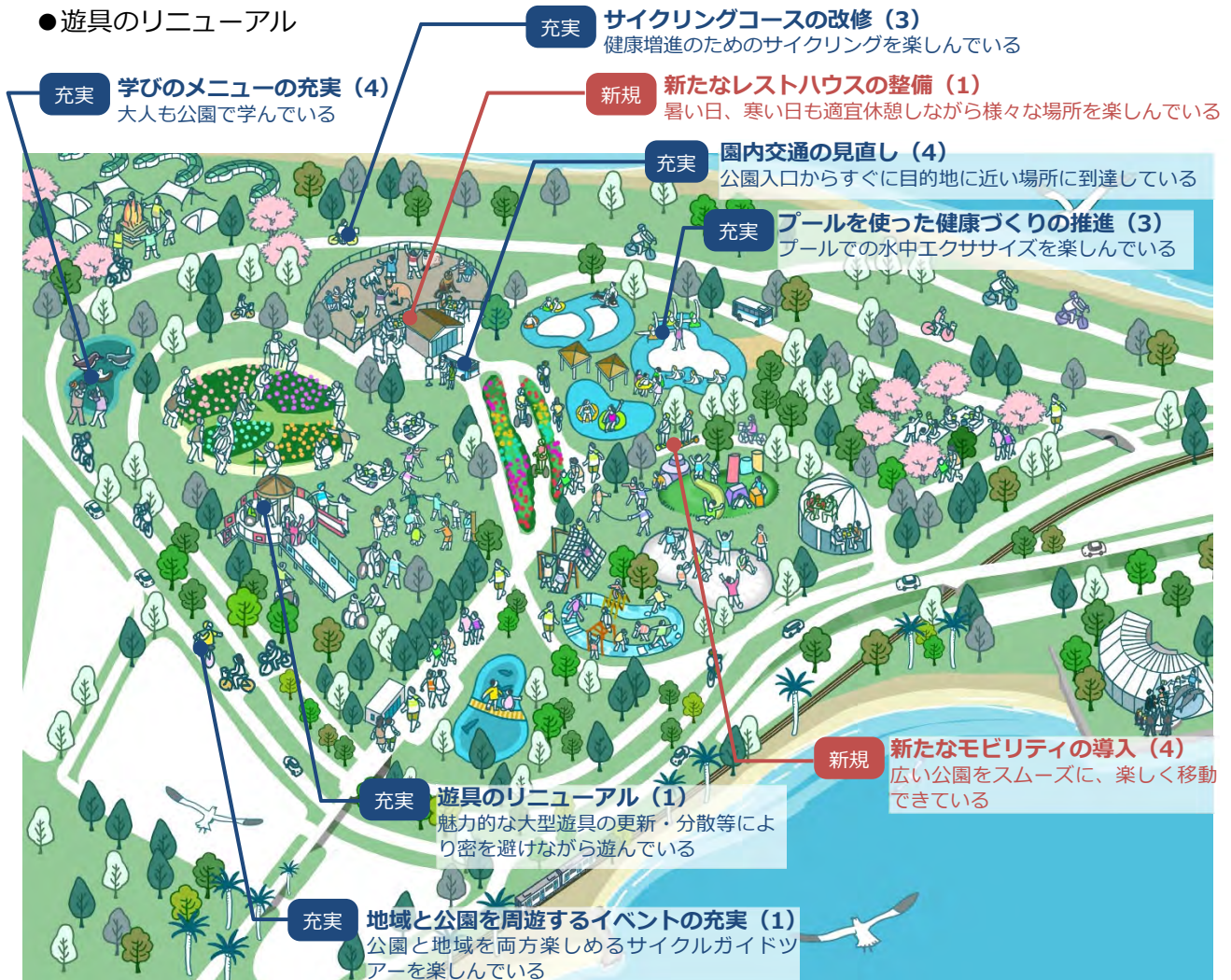


(将来)

- 緑豊かで開放的な空間の中で元気よく遊べるフィールドとしての魅力をより高めるため、ニーズの変化に応じた遊具のリニューアル、体験アクティビティの充実などを進める。
- 広いエリアをより円滑・快適に移動できるよう、園内交通のルート再編や新しい移動手段の導入等に取り組む。
- 当初開園時の1981年(昭和56年)に整備された施設が多いエリアでもあるため、安全で魅力的な施設を継続的に維持管理できるよう、老朽化施設の統廃合等により管理の効率化を図る。

<主な施設の整備・改修計画内容>

- サイクリングコースの改修 (長距離サイクリング用コース、施設移動用コース等への再編)
- レストハウスのリニューアル (老朽化したレストハウス等の集約再編)
- 遊具のリニューアル



（現状）

ホテル、水族館、マリナー、テニスコートなどの多様なリゾート施設が位置。鉄道・船などの公共交通機関を利用した旅行者が多く入園するエリア。

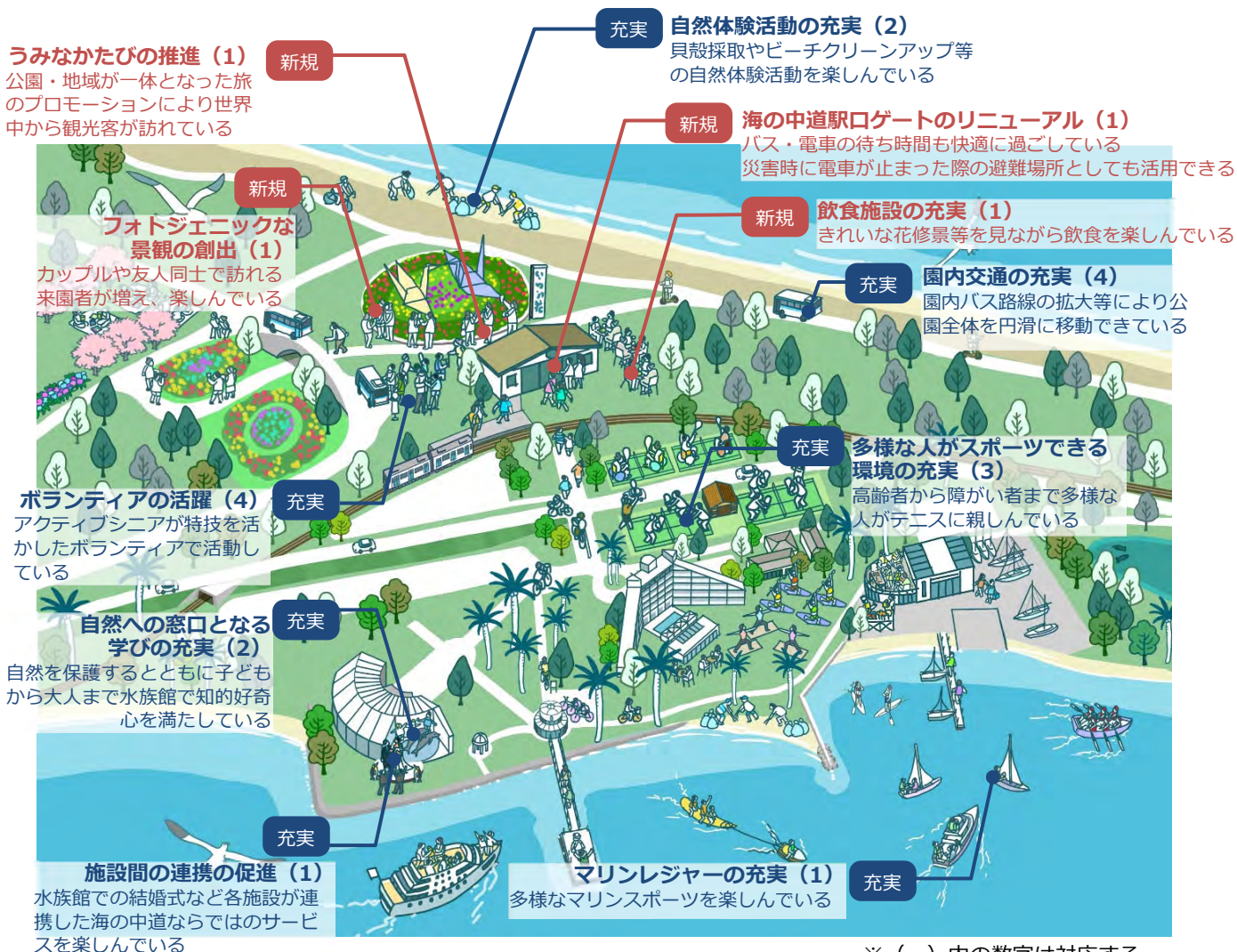


（将来）

- 福岡都心から近い位置にある非日常の癒しの空間としての魅力をより高めるため、施設間の連携をより強化して、立地・景観等を活かしたより多様なサービスを提供する。
- 鉄道・船等の公共交通を使う旅行者が多く、今後より東側に広がる開園区域へのアクセス拠点として一層重要性を増す海の中道駅口ゲートとその周辺を交通ターミナル拠点として再整備する。

<主な施設の整備・改修計画内容>

- 海の中道駅口周辺のリニューアル（休憩場所の拡充、飲食・物販施設の導入、初めての方でも行き先が分かりやすい動線への見直し、大人も楽しめるフォトジェニックな景観創出等）



（現状）

環境共生の森、デイキャンプ場、森の池エリアなど自然を主体としたエリア。環境の保全・創出や環境学習に重点を置いた管理運営を実施。

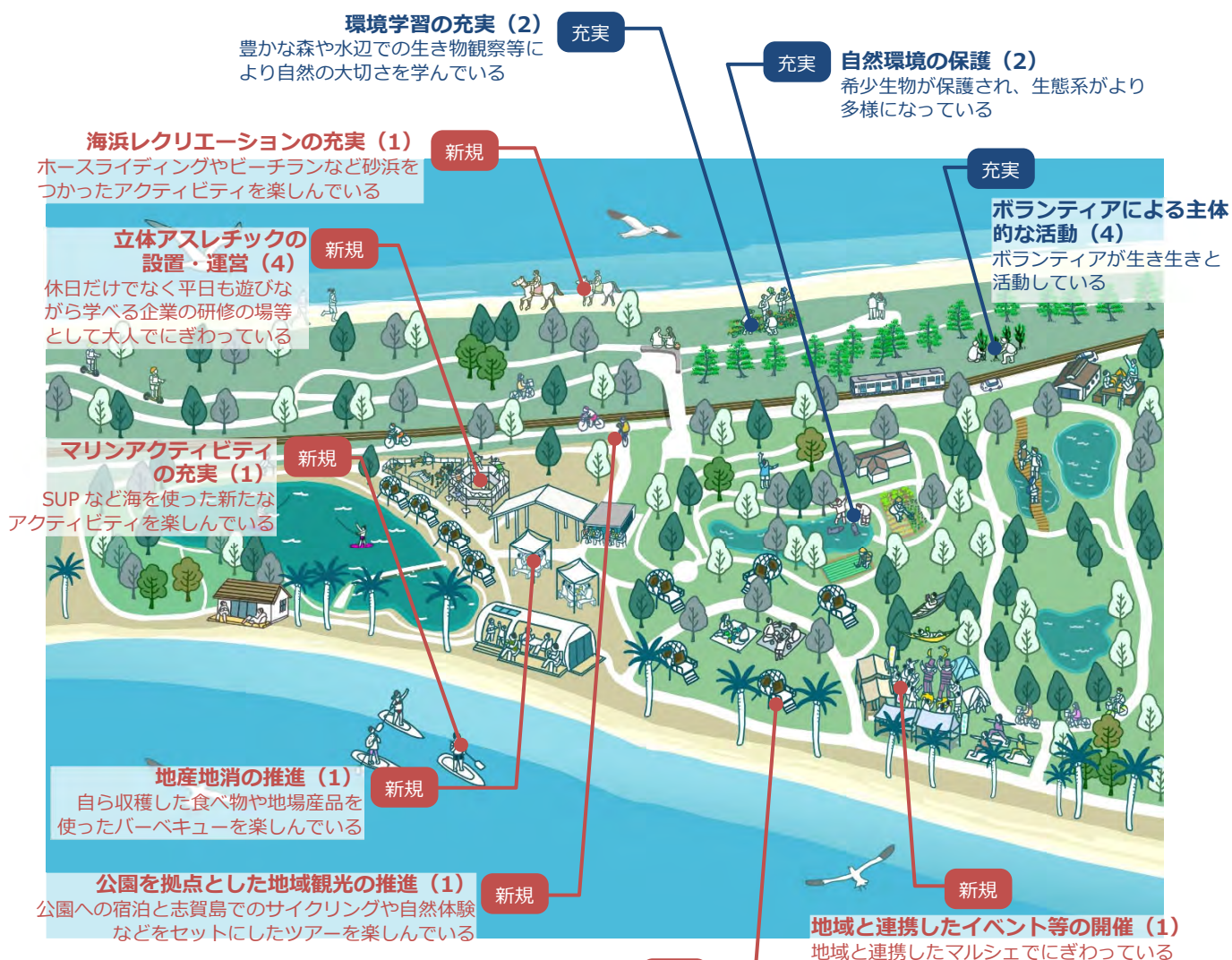


（将来）

- 裸地から数十年かけて森を形成することを目指している環境共生の森において、ボランティア等との連携による森づくりを継続的に推進し、多様な生物が生息できる環境を創出する。
- 豊かな自然環境を活かした環境学習プログラム、自然体験プログラムを充実させ、自然と共生しながらその大切さを学び、後世へ伝える。
- 飲食施設や立体アスレチックなどの整備、SUPやカヤックなど海や自然を活かしたアクティビティの充実により、大人も含めた多様な世代へ魅力を提供する。

<主な施設の整備・改修計画内容>

- Park-PFI 事業による新たな滞在型レクリエーション拠点の整備（球体テント、立体アスレチック、飲食施設等）



※（ ）内の数字は対応する将来像の番号を示す

未開園区域（A・B地区） ⇒ 健康的なライフスタイルを支える場へ

（現状）

国営公園としては未整備のエリア。福岡市が条例に基づき管理している「雁の巣レクリエーションセンター」が位置。



（将来）

- 既に市民の多様なスポーツの場として親しまれている雁の巣レクリエーションセンターと隣接するB地区の未開園区域の整備を推進し、エリア一帯を健康増進・運動の場として開園する。
- 穏やかな博多湾に面した砂浜において、海を感じるスポーツ、アクティビティ、自然体験プログラム等を実施し、公園内で最も海を感じることができるエリアとする。

<主な施設の整備・改修計画内容>

- 博多湾側（B地区未開園区域）に園路、ジョギングコース、休憩施設等を新たに整備



玄界灘海浜部エリア（D地区） ⇒ 白砂青松を継承する自然との共生の場へ

（現状）

波風の強い玄界灘側に位置し、マツ林が保全できているエリア、飛砂等によりマツ林が衰退しているエリア、新たにマツを植栽しているエリアなどがある。

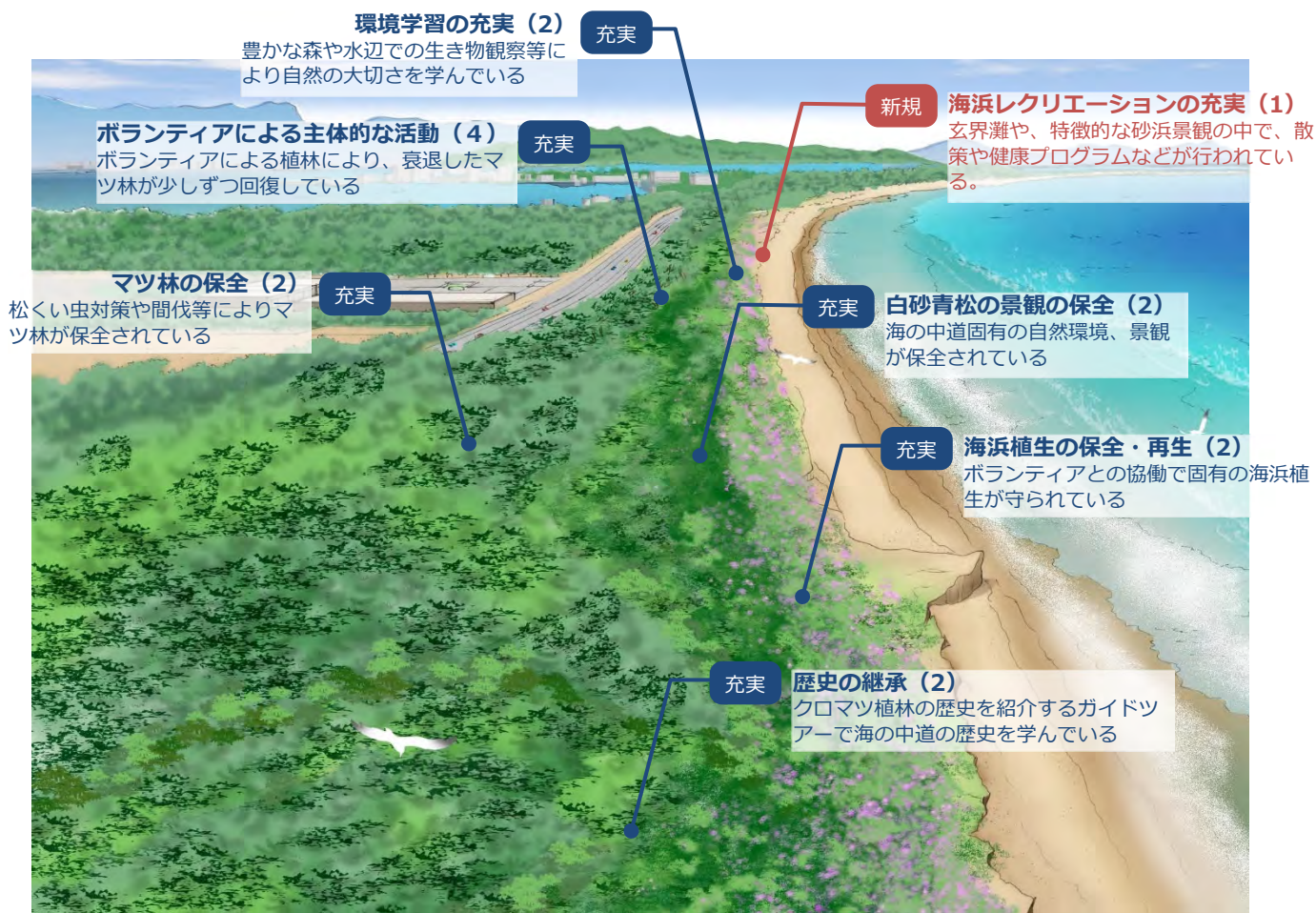


（将来）

- マツの植栽や、松くい虫対策など、マツ林の育成保全の取組を継続する。
- マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進するとともに、江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組を紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて、市民と協働で白砂青松の景観を後世に継承する。
- 自然環境に配慮しながら、海浜レクリエーションの充実を段階的に図る。

＜主な施設の整備・改修計画内容＞

●マツの植栽等



※（ ）内の数字は対応する将来像の番号を示す

今後に向けて

本将来像は、海の中道固有の白砂青松の自然環境の保全、北部九州における広域的レクリエーションの拠点の創出等を目的とした国営公園として、公園管理者、施設の管理運営を行う者等が、概ね 10 年後にどのような公園を目指すのか、どのように公園を楽しんで頂きたいか、公園の周辺地域と一緒にどう発展していくか等について協議した結果を共有するために取りまとめたものです。

今後は、本将来像の実現に向けて、具体的な取組を計画的・効果的に実行して参ります。なお、本将来像に記載している取組はあくまで現時点のものであり、今後、公園内外の各主体との連携や調整、市民や利用者の意見、ニーズ等を踏まえて適宜充実を図るとともに、大きな社会情勢の変化が生じた場合などは、必要に応じて修正、改訂等を行います。

また、将来像の実現に向けた個々の取組だけでなく、20 年、30 年というより長期的な視野での取組、本公園のスケールメリットや多様な施設のポテンシャルを最大限引き出すため、全体を俯瞰した利活用・保全の計画、動線計画についても引き続き検討し、今後もより多くの方に利用頂き、時代に応じた役割を果たすことができる公園として、その価値を持続的に高めていくことを目指しています。

国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会 委員名簿

敬称略 ◎：会長

	氏名	所属	役職
学識経験者	大江 英夫	一般社団法人九州スポーツツーリズム推進協議会	シニアアドバイザー
	◎ 包清 博之	九州大学大学院 芸術工学研究院 環境デザイン部門	教授
	久保田 家且	西日本短期大学	副学長 教授
	高取 千佳	九州大学大学院 芸術工学研究院 環境デザイン部門	准教授
	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科	准教授
園内関係機関	八波 信行	海の中道管理センター	管理センター長
	東 圭司	(株)海の中道海洋生態科学館 マリンワールドPFI (株)	代表取締役社長
	水口 丈史	(株)Plan・Do・See ザ・ルイガンズ.	ゼネラルマネージャー
	佐々木 露子	(株)ササキコーポレーション 海の中道マリーナ&テニス	支配人
	安部 倫太郎	福岡市 海の中道 青少年海の家 指定管理者 あゆみらい福岡市自然の家共同事業体	所長
	上田 寛	海の中道パーク・ツーリズム共同事業体/三菱地所 (株)都市開発部	ユニットリーダー
地方公共団体	原田 昌宏	福岡県 建築都市部 公園街路課	課長
	奥田 正浩	福岡市 住宅都市局 花とみどりのまち推進部	部長
公園管理者	澤田 大介	九州地方整備局 建政部	公園調整官
	平塚 勇司	九州地方整備局 国営海の中道海浜公園事務所	事務所長